

特別講演**NMCC エンドユーザーの国際環境協力**

独立行政法人 産業技術総合研究所 地圏資源環境研究部門 主任研究員
村尾 智

本講演では、PIXE のエンドユーザーが、NMCC と連携しながら、どのような国際環境協力を進めてきたか、ご紹介したい。具体的には「スモールスケールマイニング」と総称される鉱業の一分野について、経験談をお話する。

演者は、2009 年に、国連の CSD（持続可能な開発委員会）第 18 会期地域実施会合鉱業分野の主執筆者に選んでいただき、さらに、2010 年には、国連本部で開催された CSD 本会合でパネリストを勤める機会に恵まれた。そこで議論していて再認識したのは、取り扱い困難な問題であるスモールスケールマイニングの対策が強化され国際協力が進みつつあることである。

スモールスケールマイニングというのは、発展途上国の貧困層が鉱産地帯に入り込んで、岩石・鉱物を採掘し、選鉱、製錬、運搬、場合によっては密輸を行う事業形態である。環境破壊が深刻な場所が多く、さらに、社会、経済、文化、人権等に関わる問題も存在する。

現場で環境管理を行うためには汚染状況の把握が最初の作業となる。毛髪、土壌、岩石、植物、河川水、尾鉱、製錬室の煤など、さまざまな試料を採取しなければならないが、それぞれを異なる手法で分析すると、膨大な時間、予算、労力を要する。NMCC の PIXE が存在せずば、演者の研究は、なかなか進展しなかったであろう。

分析値を出した後は、環境汚染に関する地元の感情や要求を把握し、汚染はどの程度深刻なのか、地元が受け入れ可能な管理計画はどのようなものか、話を詰めてゆく必要がある。その要となるのはリスク評価であるが、産総研は NMCC と協力して、実績を積み重ねてきた。その結果、NMCC の PIXE はアジアの国際機関で知られるようになってきた。特に CCOP（東・東南アジア地球科学計画調整委員会）では「Environmental Analysis Support Programme for CCOP and Other Regions」というプログラムで正式に採択されている。

これからの国際環境協力は「ポスト 2015 アジェンダ」に沿って進められる事が多いと予想される。そうなる、「援助国」と「被援助国」と言う壁を取り払った協力が必要となり、かつ、成果が社会的弱者にまで行き渡る仕組み作りが求められる。関係者には、先端技術に不慣れな途上国出身者でも利用できるよう、ユーザーフレンドリーなインターフェースを設計されるようお願いしたい。その上で、国際機関と連携して、研究成果を現場に還元できるメカニズムを作って行けば、NMCC は、環境分析のみならず、善き環境ガバナンス構築を支援する国際協力センターとして、アジアをリードする拠点になると思われる。